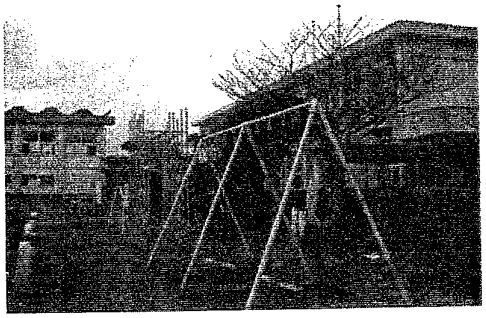
ルポルタージュ　研究実践



国語科における 地域に根ざした人材活用

－大山さんちの自然農法
「アイガモを田に放つ」より－

西之表市立安城小学校

西之表市立安城小学校では，「明るく優しく人間性豊かで，深く考え，自主性，創造性に富み，心身ともにたくましく実践力のある，ひとりだちのできる安城の児童を育てる。」という学校教育目標のもと，少人数・複式学級における学習指導法の改善と基礎学力の定着を主な教育課題として掲げている。その具体的方策の一つとして，身近な郷土素材を教材化し，多様な体験的学習を教科・領域の学習に取り入れ，教育課題の解決を図ることを目指している。ここでは，国語科における郷土素材として，地域に根ざす人材を活用した創造的な学習活動の実践について取材したことを紹介する。

1　国語科における地域に根ざした人材活用の実際

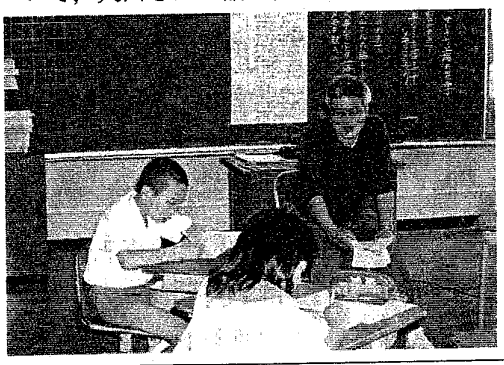
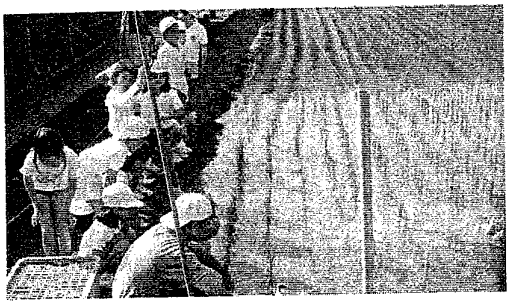
児童は，既に第３学年で「書きたいことの中心をくわしく」や「書きたいことを分かりやすく」などの学習を通して，文章の要点が分かるように事柄ごとにまとまりのある簡単な構成の文章を書くことを身に付けている。

そこで，第４学年「メモを生かして教材『せいそう工場の見学』」の指導においては，４月に総合的な学習の時間「全校『黒潮タイム』」で体験した「アイガモを田に放つ－自然農法を知る－」という活動から，さらに詳しく，本校ＰＴＡ会員の大山勉さんに自然農法やアイガモについての話を聞き，見学・取材記録文を書くという活動を設定している。こうした活動を通して，知ったことへの驚きや感動を読み手に分かるように必要最低限の事柄に絞って書き留める能力（個条書き・要点筆記・走り書き等の技法）や記録するという表現技法を身に付けさせようという学習が計画されていた。

(1)　「地域に根ざした人材活用」のポイント

児童にとって身近な方である大山さんから話を聞いたり，自然農場に見学に行ったりすることは，児童を意欲的に学習に取り組ませるという点から大変意義ある活動であると言える。また，４月に全校児童で体験した「アイガモを田に放つ」活動を通して，児童は「地球にやさしい農業」について関心を持っており，今日的課題である地球環境保護という観点からもアイガモ農法について見学・取材する価値があり，この人材活用は意義あることと考えられる。

(2)　学習の実際

時間	学　習　活　動	教　師　の　支　援
1	1　教科書の工場見学記録文の書き方を理解し，見学のための準備をする。 見学メモの取り方，見学記録文の書き方を理解する。	○　大山さんと事前の打ち合わせをする。 ○　大山さんの自然農場の見学をすることを伝え，学習への意欲を持たせる。
2	・見学メモと教材文を読んでメモがどのように生かされているか調べる。	
3	大山さんの自然農場見学のめあてをつかむ。	○　生活の場面でもメモが生かされていることを例で示し，よりよいメモの取り方を考えさせる。
4	2　大山さんを招いて，メモを取る。 大山さんの話を聞き，大事なところを落とさずにメモを取ろう。 ・①アイガモの様子と田んぼでの役割について ②自然農場をするようになったきっかけについて，大山さんの話を聞く。 	○　要点筆記の仕方について確認をする。 ○　テープレコーダーを用意し，録音しておく。 ○　児童が用意した質問を適時に発表できるように気を配る。
5	自然農場へ見学に行き，アイガモや田の様子を観察する。 ・田んぼの中でアイガモはどのような様子か。  「さあ，放すよ！」	○　見学態度について確認する。 ○　見学・取材したことを想起させ，カードにまとめさせる。 「しっかり草を食べてね」

6 7	見学・取材したことをカードにまとめる。 ・メモをもとに，カードを作る。 ・不備なところを聞いたり，資料で補充したりして，カードを整理する。 ・カードを台紙に貼って一覧表にし，お互いに見せ合って補充する。	○　不備なところは録音テープを聞き，補えるように準備しておく。
8 9 10 11 12	3　見学カードをもとに，構想表を書く。 4　構想表をもとに，見学記録文を書く。 ・作文は友達と交換し，推敲し合う。	○　カード操作で書く順序を決めるようにさせる。 ○　五感を使って取材したことを生かし，生き生きとした文が書けるようにアドバイスする。
13	5　学習のまとめをする。 記録文を発表しあい，お互いのよいところを見つける。	○　できた作文は，校内放送で発表したり，大山さんへ送ったりすることを知らせ，発表への意欲を高める。

(3)　人材活用の成果及び課題等

①　児童は，苦手な作文に意欲的に取り組むことができるとともに，アイガモを見たり，触ったり，大山さんの話を聞いたりしたという生き生きとした直接体験が，作文の中に自分の思いや考えを充分に表現することができていた。

②　児童は，「地球にやさしい」農業の喜びや苦労などの生の声を聞き，刺激され，「ぼくも大山さんのようになりたい。」と感想に書く児童もおり，身近な人を講師として招くことで，確実に児童の心に響いていた。

③　大山さんの話を聞いたことがきっかけになり，地球の環境保護について関心を持ち，意見発表会などでもテーマに選ぶ児童も出てきたようである。教師の話や調べ学習では得られない価値あるものを児童は得ることができたものと思われる。

④　指導者は，事前に打ち合わせを行い，大山さんに語って欲しいことを伝えていたが，自然破壊等の問題まで話が広がり，児童はメモを取るのに余裕がなかったということは，今後配慮すべき課題であろう。人材活用に当たっては，事前の打ち合わせを綿密に行う必要がある。

2　取材を通して

各教科等の学習指導において，児童が主体的で創造的な学習活動に取り組むためには，身近な郷土素材である「ひと」「もの」「こと」を適切に教材化し，体験的活動を意図的に仕組むことが大切であるという貴重な研究実践であり，参考にしたいものである。

（教育経営研修室　研究主任　郡山　雅朗）